

## あだたら高原スキー場で開催 スキー・スノーボード交流会

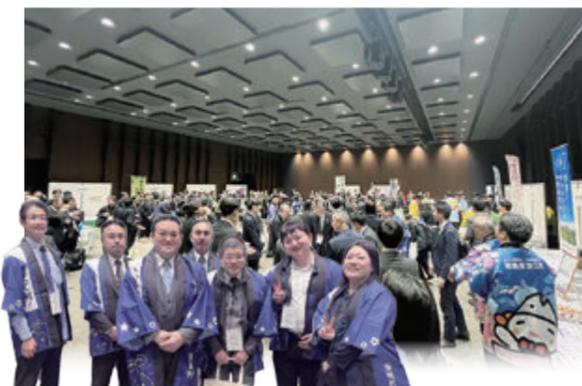


子どもからシニア世代まで24人が参加してスノースポーツを満喫。世代を越えて笑顔の交流が広がりました。

2月11日、あだたら高原スキー場(二本松市)で飯館村公民館・いいたてスポーツクラブ主催の『スキー・スノーボード交流会』(復興庁被災者支援総合交付金事業)が開催されました。

参加者は、レベルに応じたグループに分かれて、インストラクターやいいたてスキークラブの指導を受け、それぞれ技術を向上させながらスキーやスノーボードを楽しみました。また、ゲレンデでもレストハウスでも、参加者同士が世代を越えて言葉を掛け合い、交流を深めていました。

## 企業立地セミナーで 企業と交流、魅力を発信!



多くの来場者でにぎわう会場の様子。参加した各地の自治体と企業が活発に交流しました。

1月20日、東京都千代田区の手町プレイスホールで開催された『福島イノベーション・コースト構想企業立地セミナー』に、杉岡村長が出席しました。

ブース交流会で、杉岡村長が22社と対面し、村の取り組みや立地環境について説明をしながら意見交換を行うなど、今後の企業誘致を進める上で、大変有意義な機会となりました。また、会場で、飯館産の牛肉やエゴマ、いいたて雪っ娘かぼちゃなどを使った食事が提供され、来場した企業の皆さんに、飯館村の魅力を知っていただくきっかけにもなりました。

## 『第4回七ヶ浜の恵みフェア』 N-1グランプリにエントリー!



「やまぶき味噌の会」の皆さんが現地で調理し、つくりにての海苔餅を提供!甘酒やちまきも販売しました。

2月15日、宮城県七ヶ浜町で開催された『第4回七ヶ浜の恵みフェア 海苔だよ!全員集合!!』に出店しました。新海苔の季節に合わせて開催されたこのイベントは、同町特産の“海苔”がテーマ。海苔を使った創作料理を競う「N-1グランプリ」も行われ、村は特産のもち米「あぶくまもち」を使った“杵つき海苔餅”でエントリーしました。「やまぶき味噌の会」の“玄米糎味噌”とバターを効かせた絶品の海苔餅です。開場と同時にこの海苔餅を買い求める人の列ができる盛況ぶり、約1時間で完売しました。

## 相双地方の森林組合協議会 行政の協力を要請



杉岡村長に要望書を手渡す松永秀篤会長(右から2人目)。右端は飯館村森林組合の佐藤長平組合長(宮内)。

1月28日、「相双地方の森林林業の再生のための関係森林組合協議会」の代表が来庁しました。同協議会は、飯館村森林組合を含む相双地方の7組合が、マンパワーを補い合い、事業の推進や人材育成で連携することを目的に、令和6年9月に結成しました。来庁した皆さんは、杉岡村長らと懇談し、森林整備にかかる情報を共有。また、令和8年度から5か年の「第3期復興・創生期間」を見据え、関係自治体との連携を図っている旨を伝え、要望書を提出して、村に対しても協力を要請しました。

## ひみつ基地どきどきが バルーンアートイベントを開催



風船がみるみる形を変えていく様子にわくわく。会話や遊びも取り入れたバルーン体験を楽しみました。

2月22日、ふかや風の子広場のひみつ基地どきどきが、利用者への感謝を込めて、風船工房MORITTOによるバルーンアートのイベントを開催しました。

ひみつ基地どきどきのホールに、たくさんの家族連れが集まりました。子ども達は順番に、好きな色やアイテムをリクエスト。自分だけのバルーンアートをつくってもらいました。また、完成したバルーンの花やハート、動物や剣などを使って、楽しく遊ぶ様子も見られました。

ご来場いただいた皆さん、ありがとうございました。これからもたくさん遊びに来てくださいね。

## 浜通り地区環境放射線研修の 報告会が開かれました



村内で行った実地研修の成果についてスライドで報告する水野さん(写真奥中央右)と樋口さん(同左)。

放射線に関する理解を深め、地域や社会の課題を考える「福島県浜通り地区環境放射線研修」の報告会が2月9日に村役場で行われ、杉岡村長以下、村幹部が出席しました。大阪大学を中心にさまざまな大学の学生や大学院生が参加し継続している研修で、大阪大学大学院の水野唯衣さんと東北大学の樋口涼大さんが、場所の特性による空間線量の違いや、水の流れによる土壌内の放射性物質の移動などについて計測データや分析結果を報告。村民との交流で感じた思いや、地域活性化に向けた提案も発表しました。